

第 1 回大田区自転車活用推進委員会 議事要旨

- 1 日 時 令和元年6月6日（木）14時から16時まで
- 2 会 場 大田区役所本庁舎2階 201 会議室
- 3 出席者 「委員名簿」のとおり
- 4 議 事
 (1) 自転車活用推進の検討に向けて（資料3を用いて事務局説明）

屋井委員長	自転車活用推進の検討に向けて、現状課題や区の方針に関する説明をいただいた。ご質問があれば。
福田委員	大田区は23区の中で生活習慣病有病率が1位となっているが、この要因は何か。
佐々木 健康医療 政策課長	区民の特定検診の受診率が他区と比べて低いため、結果的に発症に繋がっている。がん検診を含め特定健診の受診しやすい環境づくりを進めている。
屋井委員長	健康はやはり重要な視点であり、自転車が貢献できる部分があると思う。別の取り組みも含めて、当委員会でも報告いただければと思う。
室谷委員	健康に力を入れた計画を行う区は初めてなので、ぜひ頑張ってもらいたい。 (株)シマノでは、例えば自転車通勤と自動車通勤を比べると自動車通勤者の医療費が高い、等のデータも取得している。 自転車通勤促進に参加している企業（フジクラ、花王）への調査では、仕事の活性化が図れたとのデータもある。活用いただければと思う。 質問として「教育」がテーマに入っていないが、何か理由があるか。
事務局	現行計画での3テーマのうち「まもる」の中で、教育に取り組んでいる。今回の資料は自転車活用推進法に照らし、スポーツ、観光、健康と現行計画では弱い部分を中心に示している。 教育は含めない、ということではなく、「まもる」取組の中でさらに発展させ、土台として強化していくことを考えている。
屋井委員長	資料1は分かりやすく作ってはいるが、説明不足の部分もある。 課題としての教育の部分は重要な部分なので、大いに議論いただければと思う。 健康に関して、(株)シマノでも色々な取り組みを進めているということで、モニタリングで協力していただくなど、計画策定段階から参加してらえるような計画づくりを頑張っていければと思う。
北方委員	教育に関して、幼少期の子どもから高齢者まで、どのような取り組みをされているのか教えてほしい。 p5の事故発生状況について、年齢層別など詳細な情報があれば教えてほしい。 自治体によっては、高校生が多い、保護者が多いなどもあるため。 高齢者の免許返納に関して、返納後に久しぶりに自転車に乗る、という状況もあり、どのように自転車に触れて頂くのか、という点も検討が必要。

事務局	<p>大田区では保育園児対象の交通安全教育を年 90 回行っている。それから、高齢者との交通安全集会を 30 回、スケアードストレイトを 10 回行っている。また、幼稚園児、保育園児、小学生向けに交通安全だよりを発行している。すべての園児、児童を対象にして、幼稚園、保育園児では、73,700 部、小学校低学年では 49,800 部、高学年では 32,400 部配布をしている。その他、交通安全指導者研修会というものも実施をしている。</p> <p>自転車事故に関して、高齢者が 650 件中 130 件と最も多く、次いで 40 代、30 代、50 代の順である。</p> <p>高齢者への教育について、警察と連携して年 1 回の交通安全区民の集い（参加者 1,300 人）を開催している。体験教室、シミュレータ、体力測定などを行っており、今回は免許自主返納に関するコーナーを設けた。</p>
屋井委員長	<p>では、取り組みの内容について、事務局で次回に資料を用意願う。</p>
荻山委員	<p>高齢者の免許返納の状況として、オートバイの免許を返納した方が、その日のうちに電動アシスト付き自転車を購入しにくる事例も出ている。事故の対策として保険に入ることが区に住む安心感につながると思う。保険に関して、当委員会に損保協会等も入ってもらってはどうか。</p>
事務局	<p>区の保険では、過去に交通災害共済に取り組んでいたが組織が解散してしまった。現状は、自転車商協同組合と連携し、TS マーク保険への加入呼びかけを進めており、他の取り組みを含めて研究している段階。</p>
荻山委員	<p>TS 保険は、対人の場合に後遺症が残るものにしか出ないなど条件がある。結果、民間と連携した保険パッケージを作らざるを得ない状態で、現在 6,000 名の方に保険をプレゼントし検証している。実際、保険金を支払う件数は 10 件程度。</p> <p>加入者に無料点検を提供しているため、メンテナンス不足の事故を防ぐことができている。安全に利用するための所有の仕方等、乗り手の意識を高めていくことが必要。自転車のメンテナンス、自転車保険加入など、行政のほうからも意識づけをしてほしい。</p>
屋井委員長	<p>自転車保険に関して、条例化を進めて義務化する自治体も増えており、大田区でも考えていくことが必要。メンテナンス等を含めて全体的なパッケージとして検討できればと思う。</p>
小島委員	<p>スポーツは楽しむためにあり、そのためにルールも作られ、互いが思いやりをもって参加するもの。スポーツ自体が、マナーや他者への配慮などに関する教育的な要素を持つものであるとお伝えしたい。</p> <p>健康について、体だけでなく精神的な部分でも重要で、仲間がいることの安心感、チームでの一体感等で、スポーツと健康は結びついていく。みんなで出かけることは観光にもつながるもの。</p> <p>スポーツは、様々なテーマを横ぐしに繋げるものとして捉えられると思う。高齢者に対して単にルール、マナーを教えるだけでなく、どんなスポーツでもよいので参加してもらい、自転車に乗れる体を維持してもらいたいこともある。</p>

	<p>配布したチラシでのイベントでは、自転車の乗り方、楽しみ方を教えてもらえるようにスポーツ自転車のプロフェッショナルの方をお呼びした。区でも上手く連携しながら進めてもらえればと思う。</p> <p>モニタリング等を含め、地域のスポーツクラブ等と連携することも考えられる。小さなクラブだけではできることは限られるため、支援のもとで活動できるとよいと思う。</p> <p>健康では「ウェルビーイング」の考え方がある。体だけがピンピンしていれば良いというのではなく、心の部分でも健康であることが大切と思う。</p>
屋井委員長	<p>国の計画での議論でもあったが、スポーツの認識が割と曖昧になっていると思われる。競技場がある場合はスポーツの認識で間違いはないと思うが、ちょっと自転車に乗るといふ部分は、スポーツとしてか、健康づくりとしてか、曖昧に思う。そのあたりはどのように考えたらよいのか。</p>
小島委員	<p>競技スポーツを普及させるというだけでなく、普段利用しているものからステップアップしていく、自転車も良いものになっていく、ということもある。街中をすごいスピードで走られても問題はあろうと思う。</p> <p>例えば、若者の中で、自転車を使って「魅せる」スポーツもある。街中でウィリーされても問題はあろうが、スケートボードのパーク等でうまくやっていければと思う。</p>
屋井委員長	<p>先日、自転車で琵琶湖を走っていたが、自分自身はスポーツをしているという意識はあまりなかった。タイムを考えていなかったり、向上心を持って走っていなかったからだろうか、とも考えていた。</p>
小島委員	<p>スポーツを考えるときには、向上心は必ずしも必要ではないかな、とも思っており、楽しんだり、一緒に何かをやったり、そのようなものでもよいと思う。日本の中で、「スポーツとは」という縛りが何かあるように思う。</p>
室谷委員	<p>スポーツは楽しいことが基本と思う。自転車は200年の歴史があるが、移動手段か、競技の世界でしか発展してこなかった部分がある。</p> <p>㈱シマノとしては、移動手段、競技の自転車だけでなく、ライフパートナーとしての自転車の価値があるものと考え、「散走」を提案している。</p> <p>他の自治体では、「散走」の取り組みに商店街や地域の人が参画していただいております。歩きでは回りきれない範囲をゆっくり自転車で楽しむ雰囲気ができ始めている。大田区にも合うのかな、と思う。</p>
柏原委員	<p>オリンピックでは、BMXを始めとして様々な自転車の競技がある。年1回開催している区民スポーツ大会でもサイクリングを行うが、参加される方はママチャリからロードレーサーまで多様であり、スポーツとして参加される方、気軽に参加される方、混然一体でもよいのではと思う。</p> <p>資料に、新スポーツ健康ゾーンの活用に関するデータもあるが、新スポーツ健康ゾーン内を移動する手段として自転車は有効であり、サイクリングロード等には期待している。</p>
屋井委員長	<p>時間の兼ね合いもあるため、次の議題へ。</p>

(2) 計画策定に向けた調査及び(3) 今後の予定(資料3の後半及び資料4を用いて事務局説明)

河野委員	資料4のアンケートについて、p3等で観光需要に関する内容があるが、区民だけでなく、来街者にも聞いた方がよいと思う。
事務局	p3の間11等が該当すると思うが、区民への聞き方として「自転車を使って区外の方にお勧めしたい場所」等のようにしている。ただし、観光での自転車利用は区民だけではないことも理解しているため、来街者を含めたニーズの把握についても考えていきたい。
河野委員	観光情報センター等が区内にも何カ所もあり、そのようなところに協力いただくことなども考えられる。
屋井委員長	アンケートを行うことは良いが、委員会メンバーにも協力いただきながら、できればワーキングのようなものを創り、検討してはどうか。 今後、計画を策定した後は実現していかなければならず、それを考えると健康、観光、安全など様々な部分で委員や区民の方の協力が無いと上手くいかないと思う。アンケートをして方向性を決めた、というだけでは危うい。 アンケートについて、教育や安全の問題など、区の取り組みについて区民はあまり知らないと思われる。問の中で「楽しむ人が増えています」とあるが、買い物等も入っており、その人達は「楽しむ」と言われ、プラスの面ばかりフィーチャーされても疑問を感じるのではないか。 自転車通勤に関して、手当の面などを含めて把握していくことも必要で、他の自治体の調査等も参考にしながら組み立てていってはどうか。
落合委員	暮らし、観光、健康のテーマを挙げているが、10年後の評価をどのようなデータで判断していくか、を考えた上で、それを導き出すための調査を進めることが必要。10年かけて何もわからなかった、では問題がある。 現在、羽田空港跡地第1ゾーンに臨床機能と滞在機能を併せ持った施設を検討しているが、この様なハードを拠点として、多摩川の片道15km、往復30kmのコースを使ったモニタリングを進めるなども考えられる。
屋井委員長	計画には定量的な目標が必要である。例えば、健康に関して生活習慣病の有病率34.3%に対する目標など。自転車だけで全て解決できる問題ではないが、考えていくことが必要。
佐々木 健康医療政策課長	有病率の低減に向けて、受診率を高めるだけでなく、運動、健康づくり、食生活など広い視点で進めていきたいと考えている。
鈴木委員	アンケート調査については、10年後の検証でも同じ項目で調査できるようづくりが良いと思う。予定では6月中に進めるとしているが、しっかりとデータが取れるような形で検討されてはどうか。 無作為で3,000通と言うことであるが、紙面の回収率は低くなることもあり、また全盲の方等は自転車に不安があっても、回答しづらい状況もある。色々考えることはある。
屋井委員長	計画全体のプランニングのプロセスを含めて、アンケートの考え方を改めて考

	<p>えることが必要。しっかりと考えてほしい。</p>
北方委員	<p>子どもの送迎、買い物ものなどは「楽しむ」と言うより、生活のために乗っている、という感じが強いと思う。この方法で進めるのであれば、観光、健康等でのアンケートであることなど、区のスタンスを書くことが必要。</p> <p>5年後、10年後の経過を見ていくのであれば、自転車の安全の部分など基本的な部分も書いておくことが必要。ママチャリや電動アシスト自転車等に対して、怖いと思うかなど、自転車に対する率直な意見を確認したい。アンケートは量が増えすぎると回答してもらえない等の問題もあり難しいが。</p>
屋井委員長	<p>自転車の歩道通行が特例的に認められる条件を、多くの人が自分で判断しているが、警察の判断としては個々人で判断するものでない、ということになっている。このようなことが伝わっておらず、勝手な解釈になっている状況も問題である。</p>
佐々木委員	<p>足立区の西新井などで交通対策に取り組んだが、歩道でも車道でも色々な問題があった。</p> <p>交通安全教育の場に出てくれる人は良いが、出てきてくれない人をどのように参加させるのか、という観点も重要である。</p>
事務局	<p>アンケート調査に関して、時期尚早ではないか、との意見もあるが、現状では観光、健康等を進める根拠としてのニーズが把握できておらず、まずは調査を実施できればと考えていた。その後、来街者も含めてWEBアンケート等も検討できればと思うがどうか。</p>
屋井委員長	<p>実りある計画を策定し、実現していくことが重要で、そのための体制をつくりましょう、ということが重要であり、そのために区民に誤解を与えないように情報をしっかり出していくことも必要。焦らなくても良いのではないかと、いうことである。</p> <p>自転車活用推進法では、国の法律として初めて自動車を減らすことを明記しており、法自体が自転車を様々な場面で活用する根拠となるため、0からニーズを確認する必要はないと思う。</p> <p>区では様々な計画をつくり、調査をしてきており、関係者の方の意見を聞きながら、スタートを切ることができる。単にアンケートで済ますのではなく、ベターな方法で進めていくことが重要ということである。</p>
福田委員	<p>スポーツや健康に関しては、区民が当事者として取り組むことでもあるので、回答はしやすい、分かりやすいと思うが、観光に関しては、区民は答えにくいのではないかと。区民として、外国人や日本人、多くの人を呼び込むべきか、絞っていくべきか、ターゲティングをしていくことも重要ではないかと。</p>
屋井委員長	<p>様々な意見があり、しっかりと検討していくことが必要である。</p> <p>ワーキング等の進め方を含め、検討してほしい。</p>